

山崎妙熹菴やまざき せいき あん〔大山崎離宮八幡おほやまざきりきうの北側にあり、禪宗濟家、洛東東福寺即宗院の抱所なり。本尊は十一面觀音を安ず、

仏殿の額妙熹庵住慧峯南宗筆、書院の襖人物山水の画は永徳の筆、同く裏山水同筆、床張附唐画、杉戸表唐松に鶴裏雪中岩に尾長鳥、共に永徳の筆なり〕

茶室〔仏殿の側にあり、千せんの利休居士りきうこじの営む所なり、二帖台目四方鏤壁〕

袖摺松〔茶室の側にあり、利休こゝに幽棲の時秀吉公来与し給ひ、袖を摺て茶亭へ入せ給ふとぞ。古松高さ三丈余〕

芝山手水鉢しばやま〔茶室の東の庭中にあり、芝山しばやまと銘す、蹲踞形つくばいがたなり〕

此数寄屋は世に名高く、茶亭の規範とするなり。曾て豊太閤ほうたいかふ来駕の時食地五十石を土産とし給ふ、今に変わらず賜ふとぞ

聞えし〕